

学長の特別講演を拝聴して

歴史遺産コース 山岸 幸司

瓜生歴史遺産の会の第2回総会が7月22日に東京の築地本願寺の講堂で行われ、今回は学長の特別講演があり、貴重なお話を興味深く拝聴させていただきました。

地球科学者である学長が地震学からの見解で話されていた地震発生の統計と予想・原発・ジオパークは、自身が暮す新潟にも接点と共通性があることから思案する機会を得ました。

また「天地人の会」の紹介では、天文学・地文学・人文学の頭文字から名付けられたとのお話から、それぞれの分野の専門家が集まり議論することで刺激が生まれるのだと感じました。

本学園は1977年1月に、通信教育部は1998年4月に開設し、現在7023名（2017年5月現在）の社会人が学ぶ場となっている。学園が掲げる文藝復興のもと、多くの学生が集う芸術大学として発展しその運動が全国に展開されているのである。

通学部の学生は、「ULTRA FACTORY」での取り組みや、燈呂の製作で学ぶ創造の息吹が、藝術を開花させるための経験となり、また通信教育部にもその芸術性が波及していくであろう。

粟田祭 夜渡神 大燈呂巡行行列（2018年10月7日）撮影 山岸 幸司





学園の入り口に建つ「藝術立国の碑」と、大分県姫島に建つ「西村英一顕彰碑」には同じ石が使用されているようだ。西村英一は、姫島出身で元自民党副総裁であり、碑の揮毫（きごう）は田中角栄である。大きな石は日本で取れないため、黒い石は海外から持ち込まれる。これはアフリカとインドで採掘された岩石で、この素性の共通性が過去の大陸のつながりを示し、地殻変動で現在の大陸のすがたとなる。

日本列島は地殻変動の証である貴重な地質が豊富で、ジオパークの宝庫である。「世界 ジオパーク」認定の目的は、その場にある自然に根付く文化を知ってもらうためにある。

新潟県糸魚川市は、フォッサマグナの上に位置していて、2009年8月日本で初めて認定された「世界ジオパーク」がある。岩石の種類が豊富で、世界最古のヒスイ文化発祥の地と言われ『古事記』には、ヒスイを求める八千矛命（やちほこのみこと）が、出雲の国から船団送ったと記されている。

自然災害と豊かな自然

新潟で起きた地震と近年に起きた大きな地震を「地震の年表（日本）」から抜粋した。

新潟県内

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------------|
| 1. 新潟地震 | マグニチュード 7.5 | 最大震度 5、 | 1964 年 6 月 16 日 |
| 2. 上越地震 | マグニチュード 5.5 | 最大震度 4、 | 1971 年 2 月 26 日 |
| 3. 新潟県北部地震 | マグニチュード 6.0 | 最大震度 6(推定)、 | 1995 年 4 月 1 日 |
| 4. 新潟中部地震 | マグニチュード 6.8 | 最大震度 7、 | 2004 年 10 月 23 日 |
| 5. 新潟中越沖地震 | マグニチュード 6.8 | 最大震度 6 強、 | 2007 年 7 月 16 日 |

近年（21世紀）

6. 十勝沖地震 マグニチュード 8.0 最大震度 6 弱、 2003 年 9 月 26 日
7. 東日本大震災 マグニチュード 8.4 最大震度 7、 2011 年 3 月 11 日
8. 熊本地震 マグニチュード 7.3 最大震度 7、 2016 年 4 月 16 日
9. 大阪地震 マグニチュード 6.1 最大震度 6 弱、 2018 年 6 月 18 日
10. 北海道胆振東部地震 マグニチュード 6.7 最大震度 7、 2018 年 9 月 6 日

新潟中部地震では「測震度計で震度7が観測された最初の地震。死者68人（うち災害関連死が52人）。川口町の地震計で当時世界最高の2,516ガルを記録」（出典Wikipedia地震の年表）

日本列島は、地震や水害などの自然災害が多く発生する。災害の歴史から教訓として速報や避難情報の発信や、身を守るための避難用具や避難経路を準備して災害に備えている。自然から得る豊かさの反面、厳しさがあり多くの苦しみや悲しみも感じる。それが人々の心に影響を与えて自己表現を生む、季語もその一つである。災害は苦しみと悲しみをもたらして、悲惨な現実を突きつける。災害や争いがなく平穏に暮れせることを願うが、歴史は激動と平安が繰り返されている。安定して平坦な無変化が思考を鈍らせる要因の一つになるが、温和な安定は心が豊かになるための時間と余裕をつくり、心のバランスをとるための重要性がある。

変化する環境が人々に刺激をあたえることは、ある意味で感情を豊かに思考するきっかけであるのではないか。雪国での生活は、春が早く来ないかと待ち遠しい気持ちで冬を越す。積雪で活動が制限され除雪は手がかかり重労働である。客観的に見れば雪は余計なものだが、きれいな水など自然環境に貢献し、抑制された冬から雪解けによって開放される春までの変化する生活の中から、人々の心に反響して感情を豊かにしている。おいしい食べ物と四季の景色は厳しい環境が生んでくれた自然界からの贈り物である。（特別公演解説資料69）

日本列島の特徴（順不同）

- 四季の変化
- 太陰太陽暦
- 中緯度
- 縁辺海
- 世界で最も若い海
- 世界で最も古い海
- 暖流と寒流
- 豪雪と梅雨と台風
- 噴火と地震と津波
- 変動帯の文化
- 城壁のない都
- ジオ多様性
- 生物多様性
- 最新氷期を超えた生物
- 世界最古の文明
- 長編小説の歴史
- 季語と俳句
- 縦書きの文化

地域にあるそれぞれの気候の移り変わりから特徴あることばが生まれる。日本の自然環境が季語の表現を生み、地域で育つことばと自然の美しさが、こころを豊かにしている。拝聴したことで季語の科学的関係性や地理学の分野が、ことばと密接に関係していると言われて、改めてその関係性に初々しさと新鮮さを知った。伝達手段の中に言語と文字がある。日本語は「ことば」のひとつひとつに表情があり情景を浮かびあがらせる。詩歌や詠、俳句は、その最たるものでありそれらを育んできた日本語の素晴らしさを改めて感じた。

「ことば」は昔と今を結びつけ、その時間の奥行きが心を落ち着かせてくれる。時間のお奥行きは過去と今をつなぐ要素となり、「今」が過ぎていく連続性の流れは、「過去」を捉えるためのひとつの方向性のいざないだと感じた。(特別公演解説資料78・81)

季語

古代、農業生活上二季(正月から盆、盆から正月)
 四季は中国から来た新しい区切り
 広く普及するのは平安時代から
古今和歌集から歌を四季に分類
 四季観は現代にいたるまで基礎的なもの
 中世の連歌、江戸時代の俳句の季語、
今日の歳時記
 時候、天文、地理、生活、行事、動物、植物などを
 四季に分類したのが季語
 季語の約束を本意といい、
 言葉の持つイメージを決める。

ある歳時記の見出し季語の数

	春	夏	秋	冬	正月	計
時候	45	43	42	51	20	201
天文	40	44	48	42	12	186
地理	24	21	19	23	6	93
生活	112	201	83	202	96	694
行事	85	51	59	63	62	320
動物	76	122	66	50	7	321
植物	194	241	185	69	12	701
計	576	723	502	500	215	2516

『ホトギス新歳時記第三版』
 の全季題2626(傍題を含め5747)

季語の数が多い歳時記が良い歳時記というわけではない。
 季語は厳選されたものでなければならない。

終わりに、学園が目指す藝術立国とは何か立ち返り考えて見ることにした。『藝術立国』2007年で学園創立の理想は『京都文藝復興』の運動にあると述べられています。悲しくも世界では争いごとで悲劇が繰り返されています。『京都文藝復興』は悲劇からの脱却が目的の運動である。『京都文藝復興』の文末に「新しい世紀には、人類と自然への深い愛情に満ちた哲学を生み出すことから、はじめないといけない。」と述べられている。それは哲学や宗教、文学や藝術表現を追求することによって、現在から未来へと創造的精神の復興を拓く可能性が確信になるためには大切である。何を求めて学ばばいいのか見失うことがある。混乱や不安、色々な問題を抱えたときには、幾度となく原点に回帰して思案すると筋道が見える。「分かりきったこと」の中には、重要なことが隠れているのだと実感する。

2018年8月26日 山岸幸司